

1年間、早いもので今年も12ヶ月経過しました。もうすぐ1年が終わります。今年はどうな1年でしたか？ 来年は如何しましょうか？

未曾有な不況の中で経済的にも、社会的にも非常に厳しい環境下にありますが、こんな時期、

だからこそ、私は人間の本质がよくわかる(見える)時代が来たなと思います。年末のニューズレターの

タイトルは「みる」としました。



雇われている方々優良企業・役員等大きな組織に守られている方は、これまで仕事が順風満帆でさほど大きな悩みもなく、気持ちや感情も比較的に大らかで、細かいことにとらわれることもなく、大きな壁にぶち当たることもなかったのではないのでしょうか？

しかし、今回のようなグローバルで社会システムの基本的構造不況を迎えると、年金生活者、サラリーマン等の家計・経済に多かれ少なかれ影響が出てきます、目の前の物不足や心の中の

「不安・欲」が、身勝手に自己主張するようになってくると思います。

「儲けたい」「手抜きをして、経費を浮かしたい」「楽をして稼ぎたい」「なんで役人だけ楽をして国民は苦勞するのか」など。家族の中でもギクシャクする関係が生まれることもあるでしょう。今まで温厚な性格だった人が「不況心理」で、表面ではいい人を装って心の中では他人として自分自身を区別して、自分自身に利益がないと相手に対して冷淡になったり、そっけない付き合いになったり……嫌な言い方ですが、物に対する劣等感が「醜さ」を露呈させていくような気がします。

このような時に、**時**の変化に気づき、人の心の変化を自然と感じ、その現象を「みる」こととなります。物を「みる」時、いやなものを「みる」といやな気分になるし、きれいなものを「みる」と癒され心休まる思いがするでしょう。

今のものを「見る」と、見たものから創造できるものを「見る」とでは違うものが見えてくるような気がします。

未来に向けられたものの到達点を「見る」と同じ「見る」でも全く違うものが見えてくると思います。

私は、人と話す中で、イソップ物語の「ウサギとカメ」の寓話をすることがあります。皆様がお子様のころ聞いたことがあると思いますがここで話の内容の確認をしてみましょう。



「ある時、ウサギに歩みの鈍さをバカにされたカメは、山のふもとまでかけっこの勝負を挑みます。かけっこを始めると、予想通りウサギはどんどん先へ行き、とうとうカメが見えなくなってしまいました。ウサギは少しカメを待とうと余裕縋々で居眠りを始めた。その間にカメは着実にゴールへ進み、ウサギが目を覚ましたとき見たものは、ゴールで大喜びをするカメの姿でした。これを見てウサギは負けたと思い、ゴールに行くのを諦めました。」

といった話だと思えます。



この寓話の**教訓**は、「自信過剰で思い上がり、油断をすると自分のチャンスを逃してしまい、他人に取られてしまいます。また、能力が弱く、歩みが遅くとも、脇道に反れず、着実に真つ直ぐ進む事で、最終的に大きな成果を得ることができる。」ということです。

しかし、イソップ物語は動物を主人公にして風刺的に人間のモラルを説いた物語とした場合、見方によればものすごく自分に役に立つ物語に変えることができるかもしれませんね？例えば、ウサギは何を「見て」いたか、亀は何を「見て」いたか、そこから自分の物語を将来自分の役に立つように構成して観てはどうでしょうか。

私の視点は遠い未来です。あなたは何処を「みますか？



来年の希望と目標
家主様・居住者様から来年もご指導ご鞭撻をお願い致します。
来年私は夢を実現させるため、夢の玉手箱を開けて視ます！家族や親を看ます。皆様のお役に立つことをいたします。